

米国、カナダ、オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し概況

米国：2018年12月11日公表ほか USDA Crop Production

10月の気象概況（2018年11月8日公表）

10月始めの冷涼な天候及び激しい雨により、大平原地域中央部及び南部、並びに米国中西部の北部で農作業に支障が生じたことから、米国全体として2009年以降で最もダイズの収穫が遅い年となった。10月8日から10月14日までの1週間に、アイオワ州、カンザス州、ミネソタ州、ミズーリ州、ネブラスカ州、ウィスコンシン州、ノースダコタ州及びサウスダコタ州で収穫されたトウモロコシ及びダイズは5%以下であった。10月後半には農作業が再開できたので、10月28日までに米国全体でダイズの4分の3（72%）が収穫されたが、それでも最近5年間の平均の81%を下回っている。

10月10日に勢力の強いハリケーン・マイケルは、中心部の気圧からみて、米国本土を襲ったハリケーンの中で、レイバーデイ（労働者の日、9月の第1月曜日）・フロリダキーズ諸島ハリケーン（1935年）及びハリケーン・カミーユ（1969年）に次いで史上3番目に強力な暴風雨となった。強度4のハ

リケーン・マイケルは、フロリダ州パナマシティー周辺のメキシコ湾沿岸に高波による被害を与え、風速は155マイル/時（69m/秒）近くに達した。このハリケーンによる強風（74マイル/時以上、33m/秒以上）が、フロリダ州西部、ジョージア州南西部及びアラバマ州南東部といった内陸部に影響を与え、山林の他、綿花及びピーカンナツといった作物に大きな被害が生じた。ジョージア州では、ハリケーン・マイケルの来襲時には綿花の収穫が5分の1まで進んだところで、その時点では「不良」から「著しい不良」とされたのは9%であったが、10月28日の時点では、綿花全体の2分の1近く（46%）が「不良」から「著しい不良」と評価されている。

ハリケーン・マイケルはカロライナ州及び大西洋沿岸中部に大雨と突風をもたらしたが、全般的にみて、それ以前のハリケーン・フローレンスによる被害と重複した訳ではなかった。一方、大平原地域では豪雨によって収穫作業及び冬作コムギの作付けが妨げられた。10月28日の時点で、カンザス州ではソルガムの収穫が32%終了していたが、収穫率の平年並みの値は55%である。同じく10月28日の時点で、カン

ザス州では冬作コムギの作付けが76%終了していたが、作付け率の平年並みの値89%に比べて遅れている。過度な水分及び生育条件の悪化により、オクラホマ州(26%)、テキサス州(22%)及びカンザス州(18%)では、コムギの発芽状態がかなりの比率(カッコ内に示した値)で「不良」から「著しい不良」となっている。

大平原地域中央部及び南部で過度な降雨があったのと対照的に、米国西部では各地で早魃に見舞われた。10月28日の時点で、ネバダ州(95%)、カリフォルニア州(80%)、オレゴン州(77%)及びワシントン州(50%)では、どの州も少なくとも半数以上の地域で土壤湿度が「非常に不足」から「不足」と評価された。オレゴン州では10月28日の時点で、冬作コムギの18%が「不良」から「著しい不良」と評価され、この値は米国北東部で最も高い比率となった。これと対照的に、部分的には太平洋東部のハリケーン・ローザ、ハリケーン・セルジオ及びハリケーン・ウィラによる降雨が一助となって、米国南西部では早魃が軽減された。

特にハリケーン・マイケル来襲以前の期間は、米国南東部では季節遅れの温暖な天候が続いた。米国南東部の南方では、10月の平均気温が平年並みを2.8℃以上上回った。一方、大平原地域の一部及び中西部の北方では、10月後半の気温が比較的高かったにも関わらず、10月の平均気温が平年並みを2.8℃以上下回った。最も気温が下がった時期には、特に10月10日か

ら10月14日にかけて米国中央部で季節に先駆けて積雪が見られるほどの雪が降った。

10月の農業概況(2018年11月8日公表)

10月始めのハリケーン・マイケルによる豪雨及び暴風の影響で、米国南東部の降水量はかなりの値となり、多くの地域で降水量が2インチ(51mm)を上回った。10月末には熱帯低気圧となったハリケーン・ウィラの余波で、テキサス州にノースイスターと呼ばれる暴風雨が吹き荒れ、降水量が8インチ(203mm)を超えた。この暴風雨が東へ進むにつれて、東海岸にかけての地域に降雨と低温がもたらされた。10月の降水量は、大西洋沿岸地域、コーンベルト地帯の大部分、デルタ地域の一部、大平原地域、ロッキー山地及び米国南西部で平年並みの水準を上回った。10月の平均気温は米国の西半分の地域で全般的に平年並みより低く、大平原地域北部では10月の平均気温が平年並みを6°F(3.3℃)下回った。デルタ地域及び米国南東部では、10月を通じて気温が平年並みを上回った。

10月7日までに、米国全体のトウモロコシ作付面積の93%が成熟して収穫時期を迎えていた。この値は、前年に比べて13%の増加、最近5年間の平均に比べて10%の増加である。10月7日までに、米国全体で収穫が終了した面積の比率は34%であり、前年に比べて13%の増加、最近5年間の平均に比べて8%の増加である。10月21日までに、米国全体で収穫が終了した面積

の比率は49%であり、前年に比べて12%の増加、最近5年間の平均に比べて2%の増加である。全般的に見て、10月21日までの時点で、トウモロコシ作付面積の68%が「優」から「良」と報告されており、この値は前週と同様で、前年同時期と比べて2%の増加である。11月4日の時点で、米国全体でトウモロコシの収穫は76%終了しており、前年に比べて8%の増加である。

10月7日までに、米国全体でダイズの91%が成熟して落葉の時期を迎えており、この値は、前年に比べて3%の増加、最近5年間の平均に比べて6%の増加である。10月7日までに、米国全体でダイズの収穫が終了した面積の比率は32%であり、前年に比べて2%の低下、最近5年間の平均に比べて4%の低下となっている。10月21日までに、米国全体でダイズの収穫が終了した面積の比率は53%であり、前年と比べて14%の低下、最近5年間の平均を16%下回っている。10月21日までの時点で、ダイズ作付面積の66%が「優」から「良」と報告されており、この値は前週と同様であるが、前年同時期の値を5%上回っている。11月4日の時点で、米国全体でダイズの収穫は83%終了しており、前年に比べても、最近5年間の平均と比べても6%の低下となっている。

10月7日までに、冬作コムギの作付けは57%が終了しており、この値は前年に比べて11%の増加、最近5年間の平均に比べて3%の増加である。10月7日までに米国全体の30%で発芽が完了しており、この

値は前年に比べて7%の増加、最近5年間の平均に比べて2%の増加である。10月21日までに、冬作コムギの作付けは72%が終了しており、この値は前年に比べて1%の低下、最近5年間の平均に比べて5%の低下である。10月21日までに米国全体の53%で発芽が完了しており、この値は前年に比べて3%の増加であるが、最近5年間の平均に比べると2%の低下となっている。11月4日までに、冬作コムギの作付けは84%が終了しており、この値は前年に比べても、最近5年間の平均に比べても6%の低下である。11月4日までに米国全体の70%で発芽が完了しており、この値は前年に比べて4%の低下、最近5年間の平均に比べて7%の低下である。全般的に見て、11月4日までの時点で、2019年度の冬作コムギの51%が「優」から「良」と報告されており、この値は前週と比べて2%の低下、前年同時期と比べて4%の低下である。

10月7日までに米国全体の綿花の78%が開花しており、この値は前年に比べて7%の増加、最近5年間の平均に比べて4%の増加である。10月7日までに、米国全体で綿花の収穫が終了した面積の比率は25%であり、前年と比べて1%の増加、最近5年間の平均と比べて7%の増加となっている。10月21日までに米国全体の綿花の88%が開花しており、この値は、前年に比べて2%の増加であるが、最近5年間の平均に比べて1%の低下である。10月21日までに、米国全体で綿花の収穫が終了した面積の比率は39%であり、前年と比べて

3%の増加、最近5年間の平均と比べて6%の増加となっている。

11月4日までに米国全体の綿花の94%が開花しており、この値は、前年に比べて2%の低下、最近5年間の平均に比べて3%の低下である。11月4日までに、米国全体で綿花の収穫が終了した面積の比率は49%であり、前年と比べて4%の低下、最近5年間の平均と比べて3%の低下となっている。全般的に見て、11月4日までの時点で、綿花の作付面積の33%が「優」から「良」と報告されており、この値は前週と比べて2%の低下、前年同時期と比べ22%の低下である。

10月7日までに、米国全体でソルガムの73%が成熟して収穫時期を迎えており、この値は、前年に比べて5%の増加、最近5年間の平均に比べて1%の増加である。10月7日までに、米国全体でソルガムの収穫が終了した面積の比率は39%であり、前年に比べて4%の増加であるが、最近5年間の平均に比べて3%の低下となっている。10月21日までに、米国全体でソルガムの89%が成熟して収穫時期を迎えており、この値は、前年に比べて1%の増加であるが、最近5年間の平均に等しい値である。10月21日までに、米国全体でソルガムの収穫が終了した面積の比率は46%であり、前年と同様であるが、最近5年間の平均を10%下回っている。10月21日までの時点で、ソルガム作付面積の53%が「優」から「良」と報告されており、この値は前週に比べて2%の低下であり、前年同時期

の値を12%下回っている。11月4日の時点で、米国全体でソルガムの97%が成熟して収穫時期を迎えており、この値は前年及び最近5年間の平均と比べて1%の低下である。11月4日の時点で、米国全体でソルガムの収穫は64%が終了しており、前年に比べて6%低下、最近5年間の平均と比べると12%低下している。

10月7日までに、米国全体でコメの収穫が終了した面積の比率は79%であり、前年と比べて5%の低下であるが、最近5年間の平均と同様の値である。10月21日までに、米国全体でコメの収穫が終了した面積の比率は90%であり、前年と比べて7%の低下、最近5年間の平均と比べて4%の低下である。

10月7日までに、米国全体で落花生の収穫が終了した面積の比率は33%であり、前年に比べて4%の低下であるが、最近5年間の平均に比べて2%の増加となっている。全般的に見て、10月14日の時点で、作付面積の58%が「優」から「良」と報告されており、この値は前週に比べても、前年同時期と比べても12%下回っている。10月21日までに、米国全体で落花生の収穫が終了した面積の比率は56%であり、前年と比べて5%の低下、最近5年間の平均と比べて2%の低下である。11月4日までに、米国全体で落花生の収穫が終了した面積の比率は75%であり、前年と比べても、最近5年間の平均と比べても6%の低下となっている。

表1 米国の乾燥インゲンマメ等の生産見通し

作物名	作付面積 (ha)		収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2017	2018	2017	2018	2017	2018	2017	2018
オーストリアン ウィンターピー	10,720	6,680	3,800	4,820	1.49	1.38	5,670	6,620
乾燥食用インゲンマメ	846,610	840,950	814,520	813,020	2	2.11	1,625,900	1,716,760
ヒヨコマメ2/ 大粒	250,420	331,720	242,530	263,570	1.29		313,210	
小粒	177,780	246,250	171,790	181,790	1.31		224,300	
乾燥食用エンドウ	72,640	85,470	70,740	81,790	1.26		88,900	
レンズマメ	456,490	350,060	425,130	333,670	1.51	1.89	643,060	629,310
リンクルドシードピー	446,780	317,680	413,590	306,760	0.82	1.3	339,380	398,570
	(未詳)		(未詳)		(未詳)		16,190	

(未詳) データが入手できていない。

(X) 適用できない。

1/作付面積はすべての用途のものを含む。

2/四捨五入により、合計の数値に誤差が生じる可能性がある。

作物生産状況：2018年12月11日公表、米国農務省 (USDA)、農業統計委員会、国内農業統計局 (NASS)

米国の作物別作付面積、収穫面積、単収及び生産量 (2017年及び2018年)

データは、入手可能な最新の報告書または前回の報告書の推定データによる。現行年度(2018作物年度)の推定である。空欄は、推定期間がまだ始まっていないことを示す。

10月7日までに、米国全体でテンサイの収穫が終了した面積の比率は40%であり、前年に比べて1%の増加であるが、最近5年間の平均に比べて1%の低下となっている。10月21日までに、米国全体でテンサイの収穫が終了した面積の比率は65%であり、前年に比べて8%の低下、最近5年間の平均に比べて10%の低下となっている。11月4日までに、米国全体でテンサイの収穫が終了した面積の比率は91%であり、この値は前年と同様であるが、最近5年間の平均に比べて1%の低下となっている。

10月7日までに、米国全体でヒマワリの収穫が終了した面積の比率は6%であり、前年に比べて1%の増加であるが、最近5年間の平均と同様となっている。10月21日までに、米国全体でヒマワリの収穫が終了した面積の比率は19%であり、前年に比べて8%の低下、最近5年間の平均に比べて9%の低下となっている。11月4日までに、米国全体でヒマワリの収穫が終了した面積の比率は52%であり、前年に比べて16%の低下、最近5年間の平均に比べて9%の低下となっている。

カナダ：2018年12月20日公表 AAFC Outlook for Principal Field Crops

概観

本報告書は、11月に公表されたカナダ農業食料省の2018/19作物年度の生産見通し報告書を更新するものである。大部分の作物について、カナダの作物年度は8月1日に始まり、7月31日に終わる。トウモロコシ及びダイズについては、作物年度は9月1日から8月31日までである。

乾燥エンドウ

2018/19作物年度のカナダの生産量は、前年度に比べて13%減少して360万tとなる見込みである。これは、特にサスカチュワン州及びアルバータ州で収穫面積が減少したことによるものである。単収は前年度と同様であった。黄色乾燥エンドウの生産量は300万tとなる見込みであり、また緑色乾燥エンドウの生産量は40万tとなる見込みであって、残りはその他の各種銘柄に少量ずつ分散している。供給量は僅かに減少して420万tとなったが、これは期初在庫量が多かったからである。輸出量は、インドの輸入量が減少していることから、260万tとなる見込みである。インドへの輸出量の減少は、中国への輸出量が過去最高記録に達する見込みであることで部分的に埋め合わせられるとみられている。輸出量の減少が予測されていることから、期末在庫量は増加する見込みである。黄色乾燥エンドウの価

格の低下が、緑色乾燥エンドウの価格の上昇によって相殺されたことで、平均価格は2017/18作物年度と同様となる見込みである。2018/19作物年度の期末在庫量は増加する見込みである。

11月中に、サスカチュワン州の黄色乾燥エンドウの生産者価格は15ドル/t、緑色乾燥エンドウの生産者価格は30ドル/t、それぞれ上昇した。これは、主にインドで冬作豆類の収穫量の減少が見込まれていることによるものである。現時点までのところ、緑色乾燥エンドウの価格が、黄色乾燥エンドウの価格を65ドル/t上回る水準を維持している。前作物年度は、緑色乾燥エンドウの価格が、黄色乾燥エンドウの価格を40ドル/t上回った。

米国の2017/18作物年度の乾燥エンドウ作付面積は、米国農務省の予測によれば、前年度に比べて減少して36万4,000haとなる見込みである。これは主としてモンタナ州で作付面積の減少が見込まれていることによるものである。単収が平年並みを下回る見込みであることから、米国農務省の予測によれば米国の乾燥エンドウ生産量は僅かに減少して60万t余りとなる見込みである。この結果、中国及びフィリピンのようなカナダ産乾燥エンドウの輸出市場における米国産乾燥エンドウとの競争は、より小規模となる見込みである。

レンズマメ

2018/19作物年度の生産量は18%減少して210万tとなる見込みであるが、これは収

穫面積の減少及び単収の低下によるものである。大粒緑色レンズマメの生産量は前年度に比べて増加して60万tとなる見込みであり、赤色レンズマメの生産量は前年度に比べて減少して約120万tとなる見込みである。その他のレンズマメ全品種の生産量は、前年度に比べて増加して30万tとなる見込みである。

期初在庫量が多かったことから、総供給量は僅かに増加する見込みである。輸出量は増加して180万tとなる見込みである。現時点では、メキシコ、アラブ首長国連邦及びインドが輸出市場の上位を占めている。等級分布が平均水準を上回るとの思惑から、輸入量は前年度に比べて減少する見込みである。輸出量が増加したことから、期末在庫量は減少する見込みである。世界的には需要が弱く、国内では期末在庫量が増加する見込みであり、等級分布の面で第1等級及び第2等級の品物の比率が平均水準より高いことから、レンズマメ全品種の平均価格は2017/18作物年度の水準を下回る見込みである。

11月中にサスカチュワン州の第1等級の大粒緑色レンズマメの生産者価格は、前月に比べて約25カナダドル/t上昇しており、第1等級の赤色レンズマメの価格は25カナダドル/t以上上昇した。これは主としてインドで冬作豆類の収穫量の減少が見込まれることによるものである。カナダ産レンズマメの品質は平均水準を上回るものと推定されている。2018/19作物年度の第1等級及び第2等級のカナダ産レンズマメの供給比率は、

前年度と同様である。2018/19作物年度の第1等級の大粒緑色レンズマメの価格は、第1等級の赤色レンズマメの価格を100ドル/t上回ったが、2017/18作物年度には赤色レンズマメの価格を340ドル/t上回っていた。

米国の2018/19作物年度のレンズマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、2017/18作物年度に比べて30%減少して80万エーカー（32万3,800ha）を下回る見込みであるが、これはモンタナ州で作付面積が減少したことによるものである。単収は平年並みの見込みであることから、2018/19作物年度の米国のレンズマメ生産量は、米国農務省の予測によれば、2017/18作物年度の水準から18%増加して40万tとなる見込みである。

乾燥インゲンマメ

2018/19作物年度の生産量は6%増加して34万1,000tとなるものと見込まれている。このうち8万8,000tがホワイト・ビーンであり、25万3,000tがカラード・ビーンである。オンタリオ州の生産量が増加したが、これは主として単収が上昇したことによるものである。マニトバ州では、カラード・ビーン及びホワイト・ビーンの単収が低下したことにより生産量が減少した。アルバータ州では、カラード・ビーンの単収は僅かに低下したものの、作付面積が増加したことにより、生産量が増加した。

輸入量は減少したが、期初在庫量が増加したことと生産量が増加したことで、供給量は11%増加する見込みである。輸出量は

前年に比べてわずかに増加する見込みである。米国及びEU諸国が、カナダ産乾燥インゲンの主な輸出市場となる見込みであり、メキシコ及び日本へも、より少ない量が輸出されている。期末在庫量は大幅に増加する見込みである。為替レートがカナダの乾燥インゲン生産者にとって有利な状況であることから、カナダ産乾燥インゲンマメの平均価格は急激に上昇するものと見込まれている。

米国の乾燥インゲンマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、15%減少して130万エーカー（52万6,000ha）を下回る見込みであるが、これは主としてノースダコタ州で作付面積が減少したことによるものである。2018/19作物年度の米国の乾燥インゲンマメ生産量（ヒヨコマメを除く）は、米国農務省の予測によれば、2017/18作物年度に比べて僅かに減少して120万tとなる見込みであるが、これは単収が上昇して過去最高記録となったからである。単収の上昇が著しかったのは、ミシガン州及びミネソタ州であった。米国産乾燥インゲンマメの輸出市場は、引き続きカナダ、EU諸国及びメキシコである。

ヒヨコマメ

2018/19作物年度の生産量は2倍以上増加して31万1,000tとなる見込みであるが、これは、収穫面積の増加及び単収の上昇によるものである。品質は前年度と同様で平年並みである。期初在庫量が前年度と同様であり、輸入量が減少している中で、供給量は2倍以上に増加する見込みである。輸出量は2017/18作物年度に比べて減少する見込みである。米国及びパキスタンが輸出市場の上位を占めている。世界的にもカナダにおいても在庫量が増加することから、期末在庫量は大幅に増加する見込みである。

2018/19作物年度の米国のヒヨコマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、過去最高記録の32万3,800haとなる見込みであって、2017/18作物年度に比べて32%の増加となる。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとする、2018/19作物年度の米国のヒヨコマメ生産量は、AAFCの予測によれば、前作物年度に比べて35%増加して、40万tを上回る見込みである。

表2 カナダの豆類作付面積・収穫量・単収その他

	乾燥エンドウ [a]			レンズマメ [a]			乾燥インゲンマメ [a]			ヒヨコマメ [a]		
	2016-2017	2017-2018	2018-2019[f]	2016-2017	2017-2018	2018-2019[f]	2016-2017	2017-2018	2018-2019[f]	2016-2017	2017-2018	2018-2019[f]
作付面積 (1,000ha)	1,733	1,656	1,463	2,254	1,783	1,525	129	135	143	62	68	179
収穫面積 (1,000ha)	1,677	1,642	1,431	2,221	1,774	1,499	118	131	137	44	68	176
単収 (t/ha)	2.88	2.5	2.5	1.44	1.44	1.4	2.11	2.45	2.49	1.86	1.49	1.77
生産量 (1,000t)	4,836	4,112	3,581	3,194	2,559	2,092	249	322	341	82	102	311
輸入量 (1,000t) [b]	32	12	15	98	35	20	91	86	80	27	48	25
総供給量 (1,000t)	5,042	4,424	4,246	3,365	2,908	2,989	355	409	456	129	151	337
輸出量 (1,000t) [b]	3,944	3,083	2,600	2,455	1,537	1,800	335	351	360	108	116	100
国内総利用量 (1,000t) [c]	797	691	901	595	495	489	19	23	26	20	34	67
期末在庫量 (1,000t)	300	650	745	315	876	700	1	35	70	1	1	170
在庫量/利用量 (%)	6	17	21	10	43	31	0	9	18	1	1	102
平均価格 (\$/t) [d]	300	265	240-270	575	475	350-380	885	760	815-845	1,000	950	450-480

[a] 作物年度（8月から7月）。

[b] 輸入量及び輸出量には加工品の量は含まれない。

[c] 国内総利用量=食用及び加工原料用+飼料用廃棄物+種子用+損耗。国内総利用量は、総供給量から輸出量及び期末在庫量を差し引いて算出した値である。

[d] 生産者価格（FOB）。すべての銘柄、等級及び市場の平均。

f: 推定。カナダ農業食料省。ただし、2018/19年度及び2018/19年度以前の年度の作付面積、収穫面積、単収及び生産量は、カナダ統計局の推定。2018/19年度以前の年度の輸入量、輸出量、種子用及び期末在庫量は、カナダ統計局の推定。

資料：カナダ統計局（STC）及びカナダ農業食糧省（AAFC）。

オーストラリア：2018年12月公表 ABARES Australian crop report

概観

オーストラリアの冬作物の総生産量の見通しは、大部分の生産地域で生育条件に恵まれなかったことから、春の始めの時点で引き下げられた。9月の降水量は多くの生産地域で平年並みを大幅に下回り、一部の地域では記録史上最低となった。さらに、ニューサウスウェールズ州南部、ヴィクトリア州、南オーストラリア州及び西オーストラリア州は、深刻な霜害に見舞われた。生産見通しが引き下げられたことと、飼料価格が高いことにより、一部の地域では穀物用に植え付けた作物を刈り取って飼料用の干し草にする生産者が見られた。ニューサウスウェールズ州を始めとする一部の地域では、作柄の悪い作物の多くが家畜の餌として利用されるか、または収穫を断念させられることとなった。

10月の降水量は、クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州北部、西オーストラリア州の大部分の生産地域では、平年並みを上回っており、その他の生産地域では、ほぼ平年並みに近い値であった。十分な降水量が得られたことにより、ニューサ

ウスウェールズ州南部、ヴィクトリア州ウィメラ地区南部、南オーストラリア州南部及び西オーストラリア州では生産見通しに良い影響もたらされた。しかし、その他の地域では、降水の時期が遅かったことから、冬作物の作柄に良い影響が生じることはなかった。全体としては、10月の降水が及ぼした効果は、9月中に生育条件に恵まれなかったことによる影響を埋め合わせるには至らなかった。

冬作物の収穫は、クイーンズランド州ではおおむね終了し、ニューサウスウェールズ州、ヴィクトリア州、南オーストラリア州及び西オーストラリア州では進行中である。現時点では、収穫済みの作物の品質には、作物の種類及び生産地域により大きなばらつきがあり、全体の品質を評価するほどには収穫が進んでいない。10月下旬及び11月の降雨により一部の生産地域で収穫の遅れが生じたが、全体の作物の品質に大きく影響するとは考えられていない。最新の降水量見通し（オーストラリア気象庁、2018年11月29日公表）によれば、大部分の生産地域の12月の降水量が平年並みを大きく上回ったり、または下回ったりすることはないものと予測されている。

表3 オーストラリアの豆類の作付面積及び生産量

作物名	作付面積 (1,000ha)			生産量 (1,000t)		
	2016-17	2017-18s	2018-19f	2016-17	2017-18s	2018-19f
ヒヨコマメ	1,069	1,116	307	2,004	1,148	330
ファバピーン (ソラマメ)	233	220	171	484	330	214
フィールドピー	230	222	179	415	289	194
レンズマメ	276	353	303	680	485	343
ルーピン	515	518	500	1,031	631	710

f: ABARESによる予測。

s: ABARESによる推定。

注: 作物年度は、4月1日から3月31日までの12ヵ月間に作付けされた作物を対象としている。首都圏及びオーストラリア北部の数値をオーストラリア全体の生産量に含めるかどうかによって、各表の間に若干の差異が生じる場合がある。

資料: ABARES (オーストラリア農業資源経済局) オーストラリア統計局、Pulse Australia。

表4 オーストラリアの州別生産量

	ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クイーンズランド州		南オーストラリア州		西オーストラリア州		タスマニア州	
	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)										
ヒヨコマメ												
2018-19f	19	16	35	32	220	245	25	25	8	12	0	0
2017-18s	450	407	55	60	575	638	30	35	6	8	0	0
2016-17	480	792	16	28	550	1,150	19	27	4	7	0	0
2017/18年度までの5年間の平均	351	444	32	39	352	531	20	22	4	6	0	0
フィールドピー												
2018-19f	39	35	50	35	0	0	70	80	20	44	0	0
2017-18s	52	52	60	70	0	0	90	125	20	42	0	0
2016-17	50	85	49	100	0	0	100	175	31	55	0	0
2017/18年度までの5年間の平均	50	66	53	65	0	0	105	139	26	39	0	0
レンズマメ												
2018-19f	7	5	125	115	0	0	160	210	11	13	0	0
2017-18s	22	29	150	200	0	0	175	250	6	6	0	0
2016-17	5	10	110	200	0	0	160	470	0	0	0	0
2017/18年度までの5年間の平均	6	9	106	126	0	0	128	232	2	2	0	0
ルーピン												
2018-19f	50	50	30	25	0	0	40	35	380	600	0	0
2017-18s	75	75	35	40	0	0	58	75	350	441	0	0
2016-17	51	66	33	60	0	0	70	100	361	805	0	0
2017/18年度までの5年間の平均	67	75	35	37	0	0	63	76	315	509	0	0

f: ABARESによる予測。

s: ABARESによる推定。

注: 作付面積が500ha未満である場合、または生産量が500t未満である場合には、四捨五入により作付面積または生産量の推定値あるいは予測値がゼロと表示される場合がある。

典拠: ABARES (オーストラリア農業資源経済局)、オーストラリア統計局、Pulse Australia

表5 オーストラリアの豆類の供給及び利用状況

作物名	2012-13 (1,000t)	2013-14 (1,000t)	2014-15 (1,000t)	2015-16 (1,000t)	2016-17 (1,000t)	2017-18s (1,000t)
ルーピン	459	626	549	652	1,031	631
フィールドピー	320	342	290	205	415	289
ヒヨコマメ	813	629	555	875	2,004	1,148
見かけ上の国内利用量 a						
ルーピン	290	286	306	398	637	274
フィールドピー	145	175	124	72	148	162
ヒヨコマメ	1	0	1	1	1	1
輸出量						
ルーピン	169	340	243	254	395	357
フィールドピー	177	169	168	134	268	129
ヒヨコマメ	853	629	663	1,145	2,293	756

a:生産量に輸入量を加えた値から輸出量を引き、さらに在庫量に明らかな変化が認められた場合には、その値を引いて算出した値。

注:生産量、利用量、輸出入量及び在庫量は、市場年度に基づいている。ピー及びルーピンの市場年度は、11月から10月まで。輸出量のデータは、市場年度に基づく輸出期間を参照したものであって、他の資料で公表されている財務年度に基づく輸出量とは一致しない場合がある。500t未満の場合には、ゼロと表示する。オーストラリア統計局の農業データ収集の範囲の変更により、2014/15年度までは推定生産額5,000ドル以上の生産者(EVAO)を対象として生産量を集計していたが、2015/16年度以降は40,000ドル以上のEVAOを対象としている。

資料:ABARES(オーストラリア農業資源経済局)、オーストラリア統計局、PulseAustralia。

表6 豆類価格の推移 (豪ドル/t)

作物名	2017				2018		
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期
国内価格: ルーピン (クィナナ調べ)	234	267	296	286	292	323	330
国内価格: ヒヨコマメ (メルボルン調べ)	827	1,034	869	763	598	645	729
国内価格: フィールドピー (メルボルン調べ)	343	362	318	298	305	378	415
輸出価格: ヒヨコマメ b	942	1,024	1,012	957	821	737	763
輸出価格: フィールドピー b	444	458	416	389	400	425	497

a:単位重量当たりの輸出価格は、米ドルで表記された日別価格の平均を、日別為替レートの四半期ごとの平均値に基づいて豪ドルに換算したものである。

b:単位重量当たりの輸出価格は、その四半期に輸出された穀物の平均価格を反映したものであって、現在の市場価格とは異なる。ここに示した価格は、オーストラリア統計局が記録したオーストラリアからの輸出の単位重量当たりの輸出価格当たり平均価格(F.O.B.本船渡し)である。輸出業者による価格の取り決めの時点と、実際に輸出が行われる時点の間には、大きな時間差が生じる場合がある。

注:第1四半期は1月から3月まで。第2四半期は4月から6月まで。第3四半期は7月から9月まで。第4四半期は10月から12月まで。価格の算出に当たっては、商品サービス税(GST)を除外している。

資料:ABARES(オーストラリア農業資源経済局)、オーストラリア統計局、CMEグループ、FarmWeekly、国際穀物審議会、TheLand、TheWeeklyTimes、米国農務省。